

リスク管理

経営トップが代わる時は、組織文化や判断基準の刷新を進めることは多い。組織文化風土の具体的な仕組みである内部統制システムの革新は、リスクの認知プロセスを変化させ、認知されたリスクへの対応行動の意思決定が健全に行われることが目標となる。



①リスク認知プロセスの革新

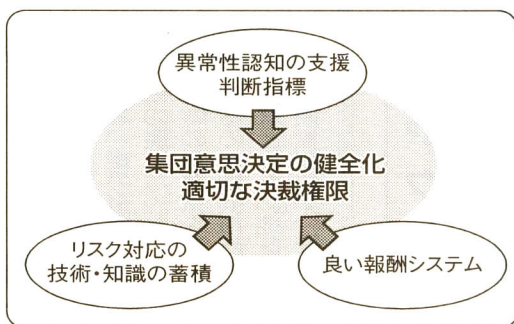
リスク認知能力の脆弱化は企業に大きなリスクを招く。しかし、リスクの認知能力を自己評価することは難しい。そこで、組織文化風土の革新では、リスク認知能力を改善することから取り組むことになる。リスク認知能力を健全に保つには、以下の三つのポイントがある。

a、担当者にリスクに対

リスクマネジメント

ABC

内部統制の革新



応する知識・経験が蓄積されていること。

通常、課題解決方法に関する技術や知識の情報探索が行われるが、これは担当者にとって限られた情報の範囲内で知識の棚卸しを行うにすぎない。この限られた技術・

c、異常であることを示す指標があること。整理と評価がおこなわれ、限られた範囲での対応活動の優先順位が決められるという点に注意すること。

知識に沿った課題整理と評価がおこなわれ、限られた範囲での対応活動の優先順位が決められるという点に注意すること。

す指標があること。整理と評価がおこなわれ、限られた範囲での対応活動の優先順位が決められるという点に注意すること。

また、意思決定活動は、代替案の企画立案と選択の行為であり、多様性と柔軟性が要求されるから難しい。

リスク対応面では、担当者にとっての確信を持てるようにすること。例えば、内部通報者の保護やリスク対応行動への評価などが適切でない担当者と考えれば、積極的な取り組み意欲に欠ける。

意思決定は、何らかのリスクの発生を伴う。内部統制システムの健全な意思決定環境を具現化した仕組みである。特に重要なのは、集団と個人では意思決定プロセスが異なる点である。内部統制システムの再構築は、集団の持つ意思決定プロセスが適切であるかどうかに着目しなければならぬ。集団として一定の意思決定を行うことは、各メンバーの調整や意見

の収集などの負荷が高い。集団の場合、誰かに決めてもらい、それを実行するチームという方が馴染みやすい。

意思決定の質向上が目標

内容の質的向上が組織文化風土の革新の目標である。